

医療に向かう気持ち

コロナ禍においても衰えず

コロナ禍における医療系志望者の気持ちについて

設問1 現在の新型コロナウイルス感染症の状況の中で、医療系を志望するみなさんの医療を目指す気持ちはどうになりましたか。最も近いものを1つ選んでください。

☒ 未回答を含める 回答数36



- 選択肢1 16人(16.0%) 医療を目指す気持ちが一層強くなった
- 選択肢2 19人(19.0%) 医療を目指す気持ちがやや強くなった
- 選択肢3 2人(2.0%) 医療を目指す気持ちにやや迷いがある
- 選択肢4 1人(1.0%) 医療を目指すことに迷うようになった
- 未回答 62人(62.0%)



15

アンケートから見る医療系志望者の気持ち

●今後このような今までにない病気が出てきたときに、医療はとても重要だと思ったし、病気にかかってしまった人の助けを少しでもできたらいいなと思った。その一方で、自分も感染するリスクが高まったり、周りからの目が気になったりして、たいへんな面があることもわかった。

●コロナで苦しんでいる方のニュースを毎日目にして、私も医療に携わって何かできればいいのにと強く思った。

●詳しいことがわかっていないウイルスに対して、一生懸命戦う医療従事者の姿に感動した。

●多くの医療従事者の方が自分の命よりも患者の命を優先していて、そこまでして自分が働けるのかと、覚悟が持てるか不安になった。

●最前線で人を助けたいと思った。

●ニュースで「医療崩壊」という言葉をよく耳にした。人々の健康、そして社会生活を支える医療が崩壊してしまうようなことはあってはならないと感じた。

上のグラフの通り、医療を目指す気持ちが強くなった、やや強くなった、という人が多く、回答者の中では9割を占めている。コロナ禍における、医療従事者のみ

Classの医療系を志望する人たちのグループ「医系グループ」で、8月下旬から9月にかけて医療系への志望がコロナ禍の状況でどう変わったか、を尋ねるアンケートが行われた。この記事は、医系グループを担当されている藤村先生に依頼した。

だが、一方で迷いを感じる人がいるのも至極当然だ。今回のアンケートでは、回答しなかった人が一番多く、おそらく医療を目指すことに迷いがある人は、このなかにも一定数含まれていると考えられる。自分のことだけでなく、家族や周囲の人への影響が伝えられるなか、不安が生じるのも理解できる。この不安は、現在医療現場でコロナやその

他の病気と闘っている医療関係者と共通する気持ちであるに違いない。私たちが持つような不安感を低減できるような医療関係者に対しての社会的なサポートが、求められる。医療関係者が不安を持つことは、そのような医療に携わる人を減らすようにはたらく、ひいては社会全体の不安定さを増す要因になる。コロナと戦う人やコロナに罹患した人に差別的な言葉を投げつけることは、社会全体のためにならないだろう。

なさんの厳しい状況については、さまざまな形で伝えられている。医療系志望者は強い関心を持って、そのような報道に触れていることだろう。それにもかかわらず、さらに医療系志望の気持ちを強くしたという人が多いという結果は、頼もしさを感じる。

私たちは、この状況を正しく理解し、自分たちができる予防措置をしつかり行った上で、医療関係者のみなさんへの物心両面の応援をすべきではないだろうか。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号